

## 第2章

# 総合人間科の取り組み

## 第1節 中学1年生

### 生き方を探るⅠ ファシリテーションを組み入れた協同学習

鈴木 克彦・大林 直美  
水谷 成仁・佐藤 喜世恵  
加藤 直志

**【抄録】** 中学1年の総合人間科では職業調べを個別研究の形態で行わせるのだが、中1という発達段階の特徴から協同的な学習が相応しい。とくに生徒相互の互恵的関係を築くために、ファシリテーションを導入した。

**【キーワード】** ファシリテーション 協同学習 互恵的相互依存関係

#### 1. 問題点と仮説

本校では中学1年生でキャリア形成の初歩的学習を総合的学習「総合人間科」で長きに渡り、指導を行ってきた。その方法は生徒が個別に関心をもつ職業について「調べ」学習を行い、実際にその仕事に従事する人を各自が探し、関心のある事柄をその人物に直接会ってインタビュー（フィールドワーク）をして情報を得て、文書にまとめ研究集録として印刷媒介を通して発表を行う。

これらの活動の形式はよく整っており、プログラムの進行も把握しやすいのだが、形骸化、硬直化のデメリットも考えられる。また個別研究の形態を取ることから、成果の発表や仕上げのスピードに個人差が大きく出る。取り組み意欲の点でも低い者は低いままで、相互に刺激し合うことで高まることもない。参考にしてもよいような優れた方法やよいアイデアなどが個人レベルで存在しても、互いにシェアをすることにならないため、個人差がそのまま残ってしまい個人の閉塞感が募ることになることもある。

互いの影響を受けやすい中学1年生という発達段階を考慮すれば、互恵的な相互作用を期待できる協同的学習の形態を取り入れることは有益なことである。お互いを高め合い、ひとりでするよりも協同で行うことで一人ひとりの成果を大きくすることが可能になる。

そこで問題解決や合意形成を集団で促進する技術としてアメリカで生まれた「ファシリテーション」により、総合的学習を進めれば、「コミュニケーション（対人）関係のスキル」、「思考（論理）のスキル」を身につけさせることができる。

#### 2. 研究背景

- (1)学習の社会的・共同体的性格から見たヴィゴツキー理論「子どもにとってまわりの人たちとの相互関係、友達との協同のなかでのみ（発達の最近接領域を作り出すことが）可能である」（ヴィゴツキー、土井捷三ほか訳、2003を柴田義松、2006が引用）
- (2)ファシリテーション、ファシリテーターに関する理論「多様性の尊重、個のリーダーシップの促進、協働精神の涵養、プロセス志向」「支援型リーダーシップ」「インクルーシブ・リーダーシップ（一人ひとりに社会的責任を持たせ、さまざまな考えを持った人たちを広く巻き込んでいく、総体的なリーダー）が・・・社会を変える大きなムーブメントになる」（堀公俊、2004）

#### 3. 研究方法

##### (1)質問紙法、因子分析

協同学習志向、自主性および個の確立、（ファシリテーション型）コミュニケーション志向、（ファシリテーション型）リーダーシップ志向、キャリア形成意識、科学への志向の5つの予測因子をもとに作られた質問紙調査を行う。（5月17日実施済み、別紙）

##### (2)アクションリサーチ

- ・毎回の写真による記録を行う。
- ・指導教員の意見、感想聴取し記録する。
- ・生徒は毎回の記録をポートフォリオとして持つ。
- ・学年通信による保護者への成果アピール、またその反応を記録する。

#### 4. 生徒把握のための因子分析の結果

・回収された調査用紙の79名は全て有効なデータであることと確認し、25項目の因子構造を検討するために、主因子法（プロマックス回転）によって因子分析を行った。スクリープロットの結果、固有値1以上の9因子が抽出された。

・第1因子「積極的行動性」、第2因子「自然科学への興味」、第3因子「計画性」、第4因子「コミュニケーション志向」、第5因子「自主性」、第6因子「優柔不断」、第7因子「受容的態度」、第8因子「否競争志向」、第9因子「臆病」と命名した。ただし第5因子以下は項目が1つしかないことから参考程度とする。

		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
2	いろいろなことに積極的に取り組む	.89	.02	.01	-.25	.14	.12	-.04	.17	.01
15	みんなの意見をまとめることができる	.63	.08	-.09	.37	.00	-.23	.04	.06	.31
19	人をやる気にさせることは得意だ	.49	-.01	.15	-.11	-.20	.07	.36	-.05	-.20
11	みんなの活動に自分の影響力を与えることができる	.45	.01	-.06	.30	.00	-.11	.15	-.11	.03
16	自然科学に興味・関心がある	.28	.85	-.13	-.13	.00	-.06	.02	-.09	.31
23	自然現象の裏の関係性がわかったときにうれしい	.00	.71	.09	.15	-.20	.21	-.08	-.10	-.20
10	将来科学技術に関連した職業につきたい	-.20	.68	-.02	.040	.28	-.20	-.09	.09	.10
7	理科の実験や観察は好きな方だ	-.20	.44	.09	.040	-.10	.43	.05	.16	.38
20	将来のためにやっておくべきことの計画を立てよう	.10	.08	.83	-.12	.10	-.14	.19	.11	-.20
6	自分の将来計画にあった進路を選ぶことができる	-.10	-.09	.78	.19	.00	-.05	-.08	-.06	.07
24	自分の伝えたいことをうまく伝えることができる	-.10	.01	.08	.87	.00	.10	.08	.00	.09
17	初めて出会った人と親しく話することができる	.17	-.11	.02	.41	-.10	.21	.19	.15	.05
21	自分のことは自分です	.01	.01	.04	-.03	.86	.13	.13	-.01	.16
18	決心がつかず行動に移せないことがある	.08	-.09	-.12	-.07	.25	.79	.28	-.06	.00
22	人に教えたり教えられたりすることは苦痛ではない	.07	-.10	-.03	.11	.15	.20	.65	-.27	.20
14	勉強は他人と競争することで力がつく	-.10	.05	-.02	-.03	.00	.02	.30	-.90	.18
5	知らないことには手を出さない	.08	.14	-.03	.05	.11	-.06	.10	-.12	.51
1	機会があれば興味がある分野の人と話すことができる	.22	-.02	.20	.05	.02	-.33	.19	-.02	.16
13	好きな職業に進むために親を説得することができる	.12	-.01	.04	.02	.35	.25	.00	.13	.16
25	自分の理想の仕事を思い浮かべることがよくある	.23	-.25	.38	.17	.06	-.01	-.04	.08	.15
9	相手の気持ちを考えながら話することができる	-.20	.11	.26	.17	.17	.04	.23	-.08	-.10
12	自立心はある方である	.07	.14	.05	.35	.30	.06	-.03	.03	-.10
4	一人で勉強するほうがはかどる	-.10	-.09	-.39	.37	.08	.04	.13	.19	-.20
3	相手の言うことをしっかり聞き、理解できる	.29	.10	.04	.29	.12	.14	-.29	-.14	-.30
8	協力して学習するほうが一人より効果がある	.19	.22	-.10	.12	-.10	.01	.25	.17	-.40
	回転後の負荷量平方和	3.48	2.42	2.48	3.55	2.21	1.71	1.26	1.20	1.12

#### 5. 指導計画

##### (1) 目標

- ① (コンテンツ) 職業調べをもとに生徒各自が将来を思い描けるようにする
- ② (プロセス) 他人に自分の考えを分かるように述べたり、しっかりと聞いたりするスキル (傾聴、active listening) を身につけ、磨く

指導目標としてコンテンツの面と伸ばしたいスキルの面から目標を立てると、コンテンツは従来からの「職業調べ」に取り組ませる。スキルの面ではファシリテーションでの最も基本的なスキルである「傾聴」を身につ

けさせる。

##### (2) 年間プログラム(F)マークはファシリテーションを実施

###### 前期

- ・第1回 オリエンテーション
- ・第2回 友人へのインタビューとその紹介  
- いいところ探しのインタビュー①(F) -
- ・第3回 実習生へのインタビューの準備  
- 作戦会議 (F) -
- ・第4回 実習生へのインタビュー  
- いいところ探しのインタビュー②(F) -
- ・第5回 興味・関心のあることを調べる①  
- 2025年の私 (F) -

- ・第6回 興味・関心のあることを調べる②  
- 文献、インターネットを使って①-
- ・第7回 興味・関心のあることを調べる③  
- 文献、インターネットを使って②-

#### 後 期

- ・第1回 フィールドワーク準備①  
- 下調べ、アポとり -
- ・第2回 フィールドワーク準備②  
- 下調べ、アポとり、依頼状書き -
- ・第3回 フィールドワーク準備③  
- グループ別事前研究発表会 -
- ・第4回 フィールドワーク
- ・第5回 フィールドワーク事後指導  
- お礼状書き、研究集録原稿書き -
- ・特 設 ポスター発表を前に  
- ちゃんと聞いていたよ (F) -
- ・第6回 2月19日 (火) 研究協議会  
- ポスターセッション -
- ・第7回 研究集録執筆完成

## 6. 実践

### (1) ファシリテーションとは

年間プログラムで (F) と示したものはファシリテーションを導入した授業である。実践報告に入る前に、ファシリテーションとは何かについて言及したい。ファシリテーションの概要を知るために、掘公俊著の「ファシリテーション入門」から以下のようにまとめた。

- ・参加体験型のグループ学習 = ワークショップ
- ・受け身型でなく双方向的参加型
- ・先生の代わりにファシリテーター
- ・多様性の尊重、個のリーダーシップの促進、協働精神の涵養、プロセス志向
- ・ファシリテーターに求められるスキル：①場のデザインスキル ②対人関係のスキル (<発散>傾聴、復唱、質問・・・) ③構造化のスキル (<収束>ファシリテーショングラフィック) ④合意形成のスキル (コンフリクトの解決)

ファシリテーションは会議の仕方のように取られる向きがあるが、参加者または組織に対して良心に基づいた、達成イメージへの情熱と信念が求められ、多分に教育的要素を内包する合意形成を行う手段である。

### (2) プログラム改善点

中1「総人」のこれまでの学習形態では、個別学習の形をとるものであった。そこでは一人一人が責任をもって取り組むことができるが、互いが何をしているのか分

からず、相互作用があまり得られないという欠点がある。この年齢、発達レベルの中学生は良きにつけ悪きにつけ、お互いの影響力が強い時期である。よい相互作用を引き出す手だてがあれば、結果は有意義なものを得られるであろう。

新しい学習形態では、協同学習の要素を多く取り入れる。個人が責任をもって参加し、互恵的相互作用によるシナジー (効果) が得られる関係性の中で学習を行う。ファシリテーションは協同学習の一手法として有用な手段である。

ファシリテーションではファシリテーターの役割が重要である。計画段階では生徒がファシリテーター役をすることねらったが、これは

#### ●生徒がファシリテーターになる

目 標：ファシリテーションに必要な基本のスキルを身につける

内 容：話し合い活動を生徒どうしで進めていく

実 践：「いいところさがしインタビュー (教育実習生に対して)」、「20XX年の私」

#### ●教師がファシリテーターになる

目 標：ファシリテーターのロールモデルとして

内 容：生徒の話し合い活動を促進する

実 践：「いいところ探しインタビュー (友達に対して)」、「ちゃんと聞いていたよ (Spencer Kagan)」

#### 実践例1 「いいところさがしインタビュー (教育実習生に対して)」

・インタビュー技術習得のワークショップ：ファシリテーションを意識させるために「全員がファシリテーター体験をする」こととした。教育実習生にインタビューをしてなぜその学問を専門としたのか、また将来の希望などを聞きだすことを課題に、4、5名のチームを編成し、インタビュー作戦を立てさせ実施した。後に各実習生よりフィードバックを受け、より効果的なインタビュー方法をワークショップ形式で学習させた。

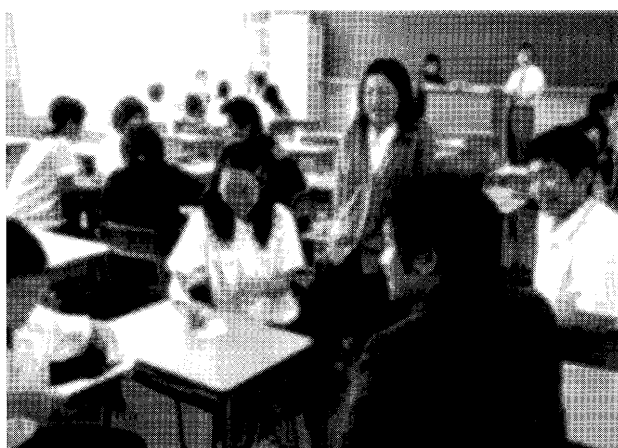
#### 実践例2 「20XX年の私」

・未来の自己像を得るワークショップ「2025年の私」：職業、住所、家庭、暮らしぶり、趣味などの項目ごとに30才ごろの自分を想像し、友人と意見を交換しあった。

<インタビュー内容をフリップチャートを使って話し合う>

<インタビュー後は実習生紹介の記事を学年通信に載せる>

<実際に教育実習生にインタビューをする>



<生徒の声>

- ・話をして物事を解決することは大切だと思った。
- ・アイスブレイクが楽しかった。
- ・他の人がしっかりした計画をもって将来のことを考えているのにびっくりした。
- ・たくさんしゃべることができた。
- ・もめるとつい中立の立場を忘れる。

<参考 職業調べのグループ分けと訪問先>

理系 (15人)	医薬系 (15人)	文系 (29人)	教員系 (20人)
名古屋市科学館	吉井脳神経外科	名古屋トヨペット	わかば幼稚園
青木模型	本間獣医科医院	元全日空パイロット	こども能力開発トムソーヤ
名大動物行動統御	日進おりど病院	名古屋地方検察庁	名古屋盲学校
富士重工	名市大薬学部	名鉄広報	BLOS英会話
名大理学部物理教室	アテナ動物院	風媒社	どんぐり保育園
トヨタ自動車	米田病院	中日ドラゴンズ	下平弥生 (ピアニスト)
富士重工	スギヤマ薬局	中京TV	蓬萊小学校
名大エコトピア科学研	竹内クリニック	ホテルグランコート名古屋	ダンススタジオZOO
日本気象協会	第二赤十字総務課	人事院中部事務局	リーダーズジュニア
名大生命農学	井上医院	絵本作家	上社スイミングスクール
名大地震火山防災研究センター	しまだ中央クリニック	ハーレムストア (洋服販売)	中日ドラゴンズ
名大環境学	おがわ内科	名大国際言語文化	苗代小
JAXA名古屋駐在員		アナウンサーアカデミー	桜田中美術教師
名大工学部機械理工		日本ナレーション演技研究所	瀬戸・幡山小
		JTBサポート	名市大芸工
		中部ミュージカル	大府グリーンゴルフ
		名大・文・考古学	原小
		愛知弁護士会	明德小
		コングレ (通訳業)	フェアリー保育園
		FORTISSIMO H (パテシエ)	中川小
		名大交響楽団	明豊中
		名古屋高等検察庁	

## 7. プログラム及び授業評価

日本協同教育学会より、協同学習の定義として次の4条件が提示されている。

- ・相互依存：互恵的相互依存関係が成立している。
- ・個人の責任：グループの成功に対する学習者自身の責任が明確になっている。
- ・相互交流：促進的相互交流の機会が保障されている。
- ・体験的理解：「協同」の体験的理解が「促進されている」。

協同学習を評価する場合これらの観点を標準とすることは可能である。

## 8. 成果と課題

### (1)授業実践を通じて

- ・話しことばによる問題解決のための交渉力を身につけることができた。
- ・ファシリテーションの基本を学んだ。例えば「傾聴」による共感をもって聞く姿勢。また話し合いのプロセスを「共有→発散→収束→決定」を基本にすることによって、場のデザイン、対人関係、構造化、合意形成のスキルの基本を学ぶことができた。
- ・互恵的相互作用による他の生徒からの影響を受けた。
- ・「2025年の私」では「ほかの人がこんなに未来の自己をしっかりと見ているのに感心した」という感想があった。他者を認め、他者のよさを自らに取り入れることに成功した生徒がいた。自己成長を促す場の提供ができた。
- ・ファシリテーターを司会、議長レベルに考える生徒も多く、議論が白熱すると中立性を忘れ攻撃的になることもあった。
- ・12才という発達レベルを考慮すると、高いレベルのスキルは望めない。共感をもって他人の話聞くこと（傾聴）だけでもできればよいのではないか。
- ・ファシリテーションは入りやすいが、奥深いものがある。当然のことだろうが、指導者がファシリテーションのポケットをいくつももつことができるようになりたい。

### (2)キャリアアンカーという考え方

- ・E.H.シャインが研究、実証した「キャリアアンカー」という概念がある。アンカーとは錨のことである。職業人が一定の職業経験等を通して職業に対する自覚された欲求と動機・才能・価値観の型を形成していくことと考えられる。これは人が仕事をしていく上でのよりどころとなるものである。実際の職務の遂行を通して職業人生の初期に形成・強化される。5つの群（その後8つ）が見出された。若年

者の育成の問題やキャリア・プランとの関連で注目を集めている。

- ・キャリアアンカーの形成は実際の職業経験を通じて20代後半から30代にかけて見られる。自分自身のセルフイメージを教育や仕事の経験の積み重ねに基づき形成する。そしてキャリアや人生における判断基準ともなり、また制約ともなっているものである。
- ・多くの中学生、高校生の場合、まだ職業に対する意識は刺激しなければくぜんとしたものしかもてないであろう。こどものころからあこがれてはいるが、夢に過ぎないものであったり、なんとなくといったものであったりする。日々の生活の中で流されてしまいがちであるが、こうしたキャリアを意識させる学習を在学時代を通して行わせることで、より現実的な意識を育てることが可能ではないか。「プレ・キャリアアンカー」のようなものを育てることが可能ではないか。

### 〔参考文献〕

- 柴田義松『ヴィゴツキー入門』こどもの未来社, 2006.  
堀 公俊『ファシリテーション入門』日本経済新聞社, 2004.  
日本協同教育学会『協同学習法ワークショップ資料』, 2006.  
エドガー・H・シャイン『キャリアアンカー』白桃出版, 2003.